

山ン寺は今を去る845年程昔、源久が今福に梶谷城を築きその子源四郎大夫直が久安年間この山ン寺城および久原の飯盛城、又大久保に和田城を築き、里には政庁を置いて、山ン寺城を本拠として館を構え、国見岳山麓、日南郷から辻堂蛇古場に到る一帯に牧場を開き松浦源氏の基礎を造った。その後東西南北松浦一帯にその一族を配置し500年間の長きにわたり、松浦源氏の威武をほしいままにした。東山道石段を登りつめた処に山祇神社がある。祭神は椽樟日神で後に熊野十二社権現を勧請し合祀した。又釈迦堂は明治期に川内野の人々が建て、室町時代の来迎阿弥陀坐像、虚空蔵菩薩像が祭られている。その前に高さ約2mの砂岩で削られた天正石地藏が祭られておる。この地藏尊は松浦党の後裔で福島の綱元の寄進と伝えられている。この他源久、源直夫妻、源清等の墓が散在している。直夫妻の墓は埋葬墓で室町中後期の宝篋印塔が墓上に安置されている。久・清の墓は遙拝墓で埋葬墓は今福のお寺に祭られている。

この他大館邸跡、総持寺跡、千人塚、鐘搗堂納経塔、山ン寺塔、方角の池、椎の原生林、盤座(いっくら)等幾多の貴重な文化財が存在している。又日南郷の西方国見岳高原の一角に約400mの鹿防跡が見ることが出来る。徳川期の牧垣跡のようである。

山ン寺は松浦党の根拠地であり、西北九州の文化発祥地でもある。

昨今山ン寺についての関心が高まり、党祖廟の建設が着々と進められていることは嬉しいことである。

紙面の都合で文化財の個々についての説明が十分でないが、資料も沢山あるので研究いただければ幸甚である。

